

労働条件改善署名を全国各地から集約！1,050筆の署名を提出！

貨物経営陣は署名の重みを鑑み、ペア6,000円を実施すべき！

未だ収束しない「新型コロナウイルス」「オミクロン株」の第6波に伴い、「まん延防止等重点措置」は18都道府県では再延長されてきている。その中で22春闘は、昨年同様「決起集会」等については自粛せざるを得ない事態であるものの、各職場段階から、貨物本社に対する要請FAX、門前ピラ、分会集会、現場長要請など、可能な限り行動を全力で取り組まれている報告も受けている。また、国労が取り組んだ「労働条件改善署名」は、組合員だけに留まらず、他労組組合員や未加入の社員の多くの賛同を得て、現時点「1,050」筆を集約した。これに加えていくつかの地方から署名追加の集約が続いている。

この署名は、3月9日に開催された第3回交渉の場で、貨物本社に「貨物社員の声」として提出している。

貨物会社の2021年度決算の着き見込みは未だ未確定ながらも、この間の社員犠牲により乗り切る姿勢に変わりはない。

貨物会社発足時からの構造矛盾によって生み出された経営環境や全国各地のどこで自然災害が発生しても影響を受け続ける中で、賃金抑制は際限なく繰り返されてきた。「コロナ禍」の下でも「指定公共機関」の使命により、安定・安全輸送に貢献し続ける社員に対し、「感謝」はされても、形で表す回答が示されなければ、納得できるものではない！経営陣は、今こそ社員の気持ちを受け止め「真摯」な回答を求めるものである。



署名へ賛同頂いた貨物社員の皆さん！ありがとうございました。